

ファイバーレーザー新設

タツミ

非住宅の特注金物を強化

タツミ(新潟県見附市、山口紳一郎社長)は、大型木造建築に採用される接合金物製造をメインとするファイバードレーザー加工機を新たに導入した。非住宅が急増するなか、金物の多品種・小ロット化が進むほか、厚板の加工が不可欠になっており、対応力を強化するとともに製造工程の効率化を図っていく。

新設機はアマダのENSIISAJ9KWで、特徴は高速切断だ。タツミは同4KWを設備しているが、それに対し加工スピードが約3分の1に短縮される。コンプレッサーエアで切断するため、ガス料金分が圧縮され、トータルコストで80%の低減効果がある。

9KWは厚物の速度、ピアス時間、断面精度が向上する。従来は加工後に酸化被膜が付いたため、塗膜はがれ等を防止するため後工程が必要だったが、その工程が不要となり効率化が進む。

また、加工スピードが向上することで待ち時間が少なくなり、時間外労働が減る働き方

が向上すること待ち時間が少なくなり、時間外労働が減る働き方

また、加工スピードが向上すること待ち時間が少なくなり、時間外労働が減る働き方

また、加工スピードが向上すること待ち時間が少なくなり、時間外労働が減る働き方



非住宅向け特注金物を製造するファイバーレーザー加工機

いることか
ら、厚板の加工が不可欠となつて
いる。今後、さらに需要増が見込まれることから、住宅向けとは別の柱として非住宅向け特注金物の製造を強化していく。

近年、非住宅の急増で、大規模木造建築では金物形状も大きくなり、木造と鉄骨のハイブリッド構造も増えて

ネットイーグルのXF15との連動も進めており、将来的にはCADデータがそのままレーザー加工機、プレカット加工機に連動し、製作工数の短縮も可能

田所洋介金属加工事業本部長は「当社は金物工法、プレカット、構造計算を1社で手掛ける強みがある。製造工程を一気に効率化するファイバーレーザーは大きな武器になる」と話している。